



共生社会システム学会ニュースレター The Association for Kyosei Studies News letter

2018年4月5日発行 第19号

目 次

| | |
|--------------------------------|---|
| 1. 2018年度大会（日本獣医生命科学大学）の開催について | 1 |
| 2. 2018年度大会個別報告の募集について | 3 |
| 3. 第1回「運営委員会」議事概要の報告 | 3 |
| 4. 第2回「運営委員会」議事概要の報告 | 4 |
| 5. 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告 | 5 |
| 6. 運営委員会事務局だより | 5 |
| 【添付】大会個別報告要旨 | 6 |

1. 2018年度大会（日本獣医生命科学大学）の開催について

2018年度大会（日本獣医生命科学大学）を以下の要領で開催いたします。

- ・日程：8月25日（土）9：00～17：00
 - ・会場：日本獣医生命科学大学 第一校舎B棟（最寄り駅：中央線・武蔵境）
 - ・大会テーマ：「日本型アニマルウェルフェアの展開を目指して—
消費者と生産者が共生するフードビジネスの展望」
 - ・大会実行委員長：植木 美希、副委員長：桑原 考史
- 9：00 受付開始 第一校舎B棟1F
9：30～12：00 個別報告 第一校舎B棟3F
12：30～13：20 総会 第一校舎B棟3F
13：20～13：30 開催校挨拶、会長挨拶
13：30～17：00 シンポジウム 第一校舎B棟3F
- 13：30～13：50 座長解題 植木 美希（日本獣医生命科学大学教授）
13：50～14：20 第1報告 松木 洋一（日本獣医生命科学大学名誉教授、AWFCJAPAN会長）
14：20～14：50 第2報告 藤田 和芳（オイシックスドット大地株式会社代表取締役会長）
14：50～15：20 第3報告 瀬尾 哲也（帯広畜産大学講師、
一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会会長）
- 15：20～15：30 休憩
15：30～15：45 コメント 大木 茂（麻布大学教授）
15：45～17：00 質疑応答、座長の要約
17：45～ 懇親会

※ シンポジウムの報告順、時間帯等は最終調整中で、一部変更する可能性がある。

- ・参加費： 正会員 2,000円、学生会員 1,000円、非会員 2,500円
シンポジウムのみ参加 資料代 1,000円
- ・懇親会費：一般（正会員ほか） 4,000円、学生 2,000円

＜＜ シンポジウムの趣旨 ＞＞

座長：植木 美希

今回のシンポジウムテーマは「日本型アニマルウェルフェアの展開を目指して—消費者と生産者が共生するフードビジネスの展望」とした。2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会を2年後に控え、組織委員会は持続可能性に配慮した畜産物の調達基準を定め、その一環としてアニマルウェルフェアに配慮した畜産物の提供が必須となっている。アニマルウェルフェアに配慮した食材の提供は2012年のイギリス・ロンドン大会より開始された。アニマルウェルフェアへの取り組みはイギリスを始めとするEUで進んでいるが、近年、急速に普及した背景にはBSE等の家畜伝染病の発生があった。家畜感染症リスクに関する社会的認知の高まりを受けて、例えば採卵鶏では、2012年に従来型ケージ養鶏を禁止し、消費者への普及のため2014年から卵殻そのものに鶏の飼育システムを示す、0（有機）から3（改良型ケージ）までの数字の印字を開始した。この印字の効果は絶大で消費者の理解が深まり、改良型ケージ飼育卵に替わり、平飼いや放牧、有機による生産物の購入割合が飛躍的に高まった。

日本においてはアニマルウェルフェアという用語そのものは、一般市民にとってはまだ馴染みが薄いことが各種アンケート等で明らかになっているが、歴史的に見れば、1970年代に草の根運動として始まった有機農業運動において、安全な卵や牛乳が求められた時、鶏や乳牛の健康的な飼育方法について消費者と生産者間で真摯な議論が活発に展開された。その運動の理念となる「産消提携」は、現在、“TEIKEI”として欧州のNGOからも高い評価を得ている。また生産者と消費者が相互理解のために膝を突き合わせて話し合うことは消費者と生産者が共生できるフードチェーン作りの先駆けであったと言えるだろう。言い換えれば、言葉としてのアニマルウェルフェアについての認識は希薄ではあったものの、本質的には日本の消費者も家畜と人の双方の健康と安全を実現するため実践しようとする努力を重ねてきた概念であると筆者は考えている。しかしながら日本におけるその後の進展においては、必ずしも十分ではない。国連においては2015年にSDGs（持続可能な開発目標）が設定されており、日本も国際社会の一員として、持続可能な農業生産と消費の促進に向けて責任を果たす必要があるだろう。

そこで本シンポジウムでは、日本の有機農業運動を普及する上で宅配等の流通改革に取り組み新たなフードビジネスの創設と市場拡大に尽力されてきたオイシックスドット大地の藤田和芳氏（代表取締役会長）、日本で初めてのアニマルウェルフェア畜産の認証団体となる一般社団法人アニマルウェルフェア普及協会の瀬尾哲也氏（帯広畜産大学）、そしてアニマルウェルフェア普及のための生産者と消費者のボーダレスな新しいコミュニティの創造を目指すAWFCジャパンの松木洋一氏（日本獣医生命科学大学名誉教授）に登壇をお願いした。いずれもその分野の第一人者であるため、濃密な報告が期待できる。

アニマルウェルフェアや有機畜産を軸とした新たな消費者と生産者が共生できる畜産フードチェーンとそのビジネス展開のあり方を議論するまたとない機会となるだろう。

皆様の積極的な参加をお願いします。

2. 2018 年度大会個別報告の募集について

2018年度大会（日本獣医生命科学大学）での個別報告を募集いたします。希望者は以下の要領に従って、学会運営委員会事務局までお申し込み下さい。

(1) 筆頭報告者は報告申込時に本学会員であること。会員でない方は至急入会手続きを行ってください。

(2) 個別報告の申込みに当たっては、a)個別報告申請書とb)報告要旨の両方をご提出下さい。

a) 個別報告申請書は、A4の用紙1枚に以下のことを記載して下さい。

①氏名：

②報告表題：

③分野：

④所属機関：

⑤連絡先住所：

⑥連絡先電話番号：

⑦Fax番号（もしあれば）：

⑧e-mailアドレス（もしあれば）：

*分野はプログラム編成時の参考とさせていただきます。

b) 報告要旨は、様式見本（本ニュースレターの最終ページ）を参考にして、A4用紙1枚をご提出下さい。

*報告要旨は、学会報告を念頭に、可能な範囲で、仮説（問題設定）、研究方法、結論をきちんと書き分けてください。

(3) 報告時間（予定）は報告20分、質疑応答10分です。
（報告者の人数によって増減する可能性もあります。）

(4) 提出方法：

学会運営委員会事務局まで、a)個別報告申請書とb)報告要旨をEメールに添付してお送りください。送り先メールアドレスは、inamura@afsp.jpです。

CD-Rなどの電子媒体に原稿ファイルを入れていただき、ご郵送いただいても結構です。その場合の宛先は下記の通りです。

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 木下ビル4F 農林統計出版株式会社内
「共生社会システム学会」運営委員会事務局 宛

*なお封筒の表面に「個別報告申込」と朱書きして下さい。）

(5) 提出締切日：2018年6月30日（土）（消印有効）

3. 第1回「運営委員会」議事概要の報告

- ・日時：2017年12月25日（月）14：00～16：30
- ・場所：東京農工大学府中キャンパス 2号館3階320
- ・出席者：木村、古沢、岡野、桑原、稲村、千年
- ・議題：

(1) 前回議事メモの確認

(2) 次回大会について

日本獣医生命科学大学での大会企画について協議し、企画原案を策定した。

(3) 賛助会員申し込みについて

賛助会員として申し出のあった機関の受付について協議した結果、当該企業の理念・行動方針は本学会の趣意に通ずるところがあるが、2017年6月に設立されたばかりで事業活動において不透明な点があること等の理由から、今回、申し込みを受け付けないこととした（申請者の個人入会（正会員）は可）。

(4) 学会顧問の委嘱について

学会顧問の委嘱について協議した結果、以下の点が合意された。

- ・理事と顧問の兼任は適切ではない。また、顧問の学会費納入の是非については、今後検討する。
- ・今年度の役員改選時に、竹村牧男会員（東洋大学）と尾関周二会員（東京農工大学）に顧問を委嘱する。顧問候補であった亀山純生会員（東京農工大学）には引き続き、理事として学会運営にご尽力頂くこととする。

(5) 長期間（5年以上）会費滞納かつ連絡先不明の学生会員の整理について

会員数200名以上を維持するという原則のもと、長期間（5年以上）会費を滞納し、連絡先が不明となっている学生会員の除名を随時、進めていくという方針のもと、該当学生の取り扱いについて協議した。その結果、2009年以前入会の学生会員で現在、連絡先不明となっている者20名と連絡先は把握しているが会費滞納している者2名の計22を除籍することとする。なお同様の条件にある正会員については今回、除籍の措置はとらないこととする。この結果、2017年12月で112名であった学生会員は90名となり、正会員136名、名誉会員2名とあわせ228名となることが確認された。

(6) 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告

- ・『共生社会システム研究』第12巻への応募本数は7本（論文6本、研究ノート1本）であった（現在、査読審査中）。また、書評は4点の予定である。
- ・査読審査において電子化を進めていく方針であること（本年度、試行中）、電子化に伴う投稿規定や執筆要領を変更する必要があることが確認された。

(7) 事務局からの報告

- ・10月に日本学術会議協力学術研究団体から依頼のあった「平成29年度協力学術研究団体の実態調査」に協力した。
- ・ニュースレター第18号を12月15日に発行した。

4. 第2回「運営委員会」議事概要の報告

・日時：2018年2月22日（木）16：00～18：10

・場所：日本獣医生命科学大学 第一校舎、E棟1階・会議室（1）

・出席者：植木、木村、古沢、矢口、榎本、岡野、桑原、千年

・議題：

(1) 前回議事メモの確認

(2) 次回大会について

日本獣医生命科学大学での大会企画について協議し、開催日程、会場、シンポジウム内容（暫定）を決定した。詳細については、本ニュースレター1～2ページ参照。

(3) その他

『共生社会システム研究』第12巻の編集作業が順調に進んでいる旨、報告された。

5. 『共生社会システム研究』編集委員会からの報告

(1) 『共生社会システム研究』第12巻について

編集状況は順調であり、日本獣医生命科学大学大会時に参加会員に配布する予定である。

(2) 『共生社会システム研究』第13巻について

『共生社会システム研究』第13巻への投稿原稿を募集しますので、ふるってご投稿下さい。

締切日は10月1日(月)です。締切日を超えた投稿については、原則、次巻(第14巻)掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

第12巻より、当学会ウェブサイトに掲載された原稿及び投稿票の書式見本ファイルをダウンロードして使用していただいております。第13巻においても同様の措置を適用します。また、紙媒体と同時に電子データをご送付いただきます。このことも含め、投稿規程、執筆要領をよく読んで原稿を作成して下さい。

原稿の送り先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部電気電子工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎 E-mail: i-okano@cc.tuat.ac.jp

6. 運営委員会事務局だより

本文中にも記しましたとおり、2018年度大会が8月25日(土)に日本獣医生命科学大学にて開催されます。植木実行委員長のもと、日本型アニマルウェルフェアの展開に向けて、消費者と生産者が共生するフードビジネスの可能性を見据えつつ、消費者、生産者、政府/行政等の様々なステークホルダーからみた現状と解決すべき課題を浮き彫りにしていくという、非常に興味深い企画が立案されています。会員の皆様にはおかれましては、2018年度大会にふるってご参加頂ければ幸いです。また、投稿原稿を募集しますので、ふるってご投稿下さい(締め切りは6月30日(土)消印有効)。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。投稿は榎本(hirolaw@cc.tuat.ac.jp)までお送りください。ただし一つの原稿は最大でもページの半分に収まる程度の分量でお願いいたします。

会費納入のお願い

2018年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員6,000円、学生会員3,000円、賛助会員20,000円となっております。よろしくごお願い申し上げます。2017年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

【添付】

大会個別報告要旨

(個別報告要旨様式：A4判 1枚)

フォント：和文は明朝体、欧文・数字はCentury

| | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|
| 左マージン 23mm | 天マージン 28mm | 右マージン 23mm |
| <h3>共生社会とは何か</h3> <p>ー 共生社会へのみちすしー</p> <p>1行あき</p> <p>府中花子・国分寺太郎*</p> <p>(共生大学・*共生研究所)</p> <p>1行あき</p> <p>(本文開始)</p> <p>本文は10.5ポイント、1行全角46文字、行送り15ポイント、左右揃え</p> <p>地マージン 28mm</p> | | |
| <p>タイトルは14ポイント、サブタイトルは10.5ポイント。中央揃え。</p> <p>著者名は12ポイント、所属は10.5ポイント。中央揃え。</p> | | |

共生社会システム学会ニュースレター 第19号 2018年4月5日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学研究院 千年篤研究室 気付

TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会